

読む・百人一首〇一五

光孝天皇

君がため

春の野に出でて

若菜摘む

わが衣手に

雪は降りつつ

きみがため

はるののにいでて

わかなつむ

わがころもでに

ゆきはふりつつ

読む・百人一首〇一六

中納言行平

立ち別れ

いなばの山の

嶺に生ふる

まつとし聞かば

今歸り来む

たちわかれ

いなばのやまの

みねにおふる

まつとしきかば

いまかへりこむ